

令和 8 年 9 月 1 8 日

団体名	依存症リカバリーサークル
代表者	仲田 翔太
担当者	仲田 翔太

「なは市民活動支援事業」

中間報告書

令和8年6月11日付け、那覇市指令市ま第1142号で交付決定の通知を受けた当該事業について、現時点での進捗を下記のとおり報告します。また、市ホームページへの掲載を承認し、中間報告会で他団体とも内容を共有します。

1.事業名	つながる相談会 ― 孤立しがちな依存症当事者や家族、特に配偶者の依存症問題を抱える子育て世帯などが支援者となつがる託児付き依存症相談の場づくり事業 ―	
2.実施内容	●令和8年7～8月に、会場・託児サービスの調整、相談員等の運営体制づくり、チラシ・Web・SNS・公式LINE・関係機関を通じた広報、相談記録様式等の準備を進めた。●9月16日（水）13:00～15:00、なは市民活動支援センターで第1回相談会を開催し、依存症当事者・家族等を対象に、個別相談、情報提供・交流、自助グループや支援機関等の案内、託児サービスを実施した。	
3.事業を一言で表現すると	依存症の問題と子どもの預け先の課題により支援につながりにくい子育て世帯が、託児付き相談会を通して支援者となつがる機会をつくる事業。	
4.これまでの活動の振り返り	【良かった点】 ●第1回は、来場者19名（見学含む）、個別相談12名、アンケート16名、託児利用1名となり、相談ニーズの高さを確認できた。●Meta広告はLP閲覧1件あたり約32円（9/12時点）と、低コストで関心層に情報を届けられ、反応・費用対効果ともに良好だった。●相談希望の多さに対し、当日は相談員の追加協力を得て増員して対応できた。相談員からも、相談者が受付から相談につながるまでの導線がスムーズで、相談対応を効率よく進められたとのフィードバックを得た。●アンケートでは満足度の高い回答が多く、安心して相談できる入口づくりにつながった。	【改善点・今後につなげる点】 ●相談希望が集中し、一人あたりの相談時間がやや短くなったため、次回以降は相談員数、相談枠、時間配分を見直し、必要に応じて増員する。●相談記録と引継ぎ方法を標準化し、相談後の支援先への橋渡しを継続的に追える体制を整える。●本事業の特徴をより生かすため、子育て世帯への周知を強化し、託児利用につながる広報を工夫する。●Meta広告は効果が確認できたため、反応の良い訴求を検証しながら、限られた予算で効率的な広報を継続する。
5.今後の活動予定（事業期間内又はすでに終了した団体については次の予定）	●令和8年10月21日、11月18日、12月16日、令和9年1月20日、2月17日の各13:00～15:00、なは市民活動支援センターで第2～6回を開催予定。●第1回の振り返りを踏まえ、相談員配置・相談時間・受付動線の見直し、相談記録・引継ぎの標準化、Meta広告や関係機関を通じた広報改善を行う。●託児サービスについては子育て世帯への周知を強め、利用数の増加を図る。	

	 (パーティションで区切った個別相談スペース)	 (気軽に休憩・交流できるフリースペース)
6.活動写真 (簡単な説明文を記入)	 (相談先や自助グループの資料コーナー)	 (相談ブースや資料コーナー等の会場全景)
	 (おもちゃ等を準備した託児スペース)	 (SNS等で使用した相談会の広報画像)
7.今回の達成目標 (当初の事業計画書に記載した目標)	● 1. 相談会開催回数：6回 ● 2. 参加者数：各回20名（延べ120名） ● 3. 託児サービス利用者へのアンケート：3件以上	
8.現時点の目標達成度 (例：60%達成)	● 相談会開催：全6回のうち第1回を実施（約17%）。 ● 参加者数：第1回は各回20名の目標に対して95%。 ● 託児サービス利用者アンケート：3件以上の目標に向けて進行中。 ● 今後も各回の実施状況を確認しながら、参加者への周知と託児利用につながる広報を継続する。	